

# ご存知ですか 灘浜の神鋼石炭火力発電所 さらに2基増設予定です



## 石炭火力発電所の大きな問題点

- (1) ぜんそくや肺がんなど健康被害が心配
- (2) 電力は足りている 負の遺産となる？
- (3) 世界の潮流は「脱石炭」なのに・・・地球温暖化の加速に
- (4) 変電所への送電線(地下)から高い電磁波が発生する

詳しくは裏面を  
ご覧ください



神鋼は今年(2017年)の10月で灘浜の高炉を廃止し、その後に石炭火力発電所を新たに2基増設の計画を進めています。現在環境アセスメントの手続きをしています。

現在のスケジュール

- 現在2基140万kw稼働中 2017年7月頃環境アセスメントの準備書提出の予定。その後住民や行政の意見を聴き、経済産業大臣が許認可判断 **環境アセスメント(パブリックコメント)や説明会で住民の意見が言える最後のチャンスです**
- 2018年着工予定
- 2021年3号機稼働予定
- 2022年4号機稼働予定(4基270万kw稼働へ)



## 私たちにできること

### 建設計画があることを まわりの人に知らせる

まわりの人に口コミや電話で、そしてSNSでも拡散しましょう。このチラシをまいてくださる方も大募集中です。

### 環境アセスメント(パブリックコメント)に参加する

7月頃に発表される「準備書」に対して市民も「意見」を文書で提出することができます。神鋼の説明会も開催されますのでぜひ参加して意見を出して下さい。意見の数が多いほど力になります。また神戸市長も意見を出すこととなりますので、市民の意見を反映した意見書となるように求めましょう。

## 石炭火力発電所の問題点を考える集い

山本さん(気候ネット) 井上さん(環境問題研究会) 森岡さん(医師) 高田さん(子育て中のママ) 野々村さん(高砂の石炭火力発電所増設を考える会) など専門家や各分野からお話があります

日時 7月8日(土) 午後6時

場所 六甲勤労市民センター大会議室

(JR六甲道駅下車南側のビル5階)

参加費無料

主催 石炭火力発電所問題を考える市民ネットワーク 神鋼石炭火力発電公害問題灘区連絡会

後援 気候ネットワーク

ひょうごエコクラブ

2017年6月発行

連絡先 灘民主商工会内 TEL078 843-7181 ひょうごエコクラブ TEL/FAX078 219-8632





# ぜんそく、肺がんなど健康被害が心配

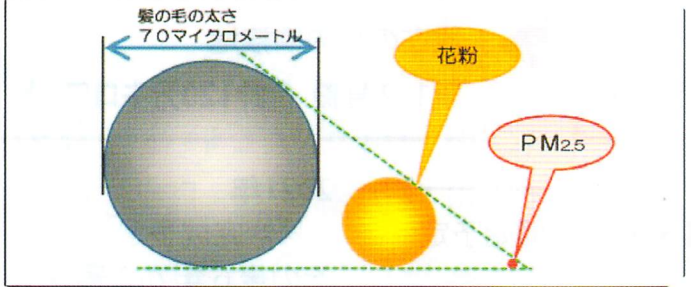


## 大気汚染の増大が明らかに

気候ネットワークなどは大阪・兵庫エリアの新規建設予定石炭火力発電所1

5件(そのうち2つは神鋼)の建設計画がすべて稼働した場合、大気汚染や健康被害が増大すると指摘。神戸市長は神鋼の増設計画に対する意見書で「区域周辺は、大気汚染物質の環境基準を達成していない地点が存在し、前面は閉鎖性の高い海域である。また、人口密集地・・・」と指摘し、大気汚染の低減を要求しています。

とりわけPM2.5という小さな汚染物質が「ぜんそくや肺がん」をひきおこす危険があります。神鋼周辺20km圏内32調査点の平成25年度の測定結果は、ほとんどの調査点でPM2.5の環境基準未達成です。



## 電力は足りている 負の遺産になるのでは

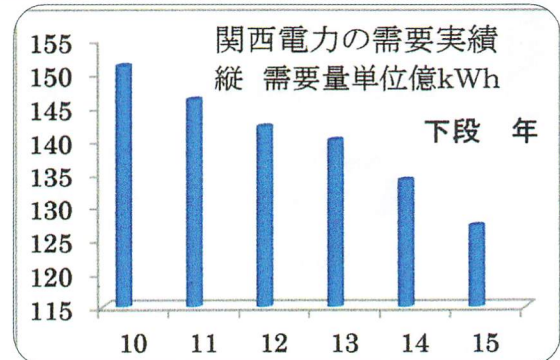
水力発電、天然ガスなどの火力発電、そして急速に伸びている「再生可能(自然)エネルギー」による発電により現在では日本の電力は十分まかなえています。

東日本大震災以降、国民の節電意識のひろがりや省エネ家電などの普及により2015年の電力消費量は2010年と比較すると約12%減少しています(関電管内は16%減)。神鋼と同時期に着工が予定されていた赤穂市の2基の石炭火力発電所(関電)は1月に中止になりました。また高砂市で2.4倍に拡大を予定していた石炭火力発電所(Jパワー)も計画が延期となりました。

神鋼も考え直し、技術力を活用して再生可能エネルギーの発電に力を入れるべきです。

### 減る電力消費

関西電力管内の電気の消費は2010年1510億kwhが2015年には1275億kWhと大幅に減っています。



## 世界の潮流は「脱石炭」なのに・・・温暖化を加速

昨年11月4日にパリ協定が発効、現在世界で111カ国(2016年11月現在)が批准しています。パリ協定は、世界の平均気温上昇を2℃～1.5℃以内に抑え、今世紀中に二酸化炭素(CO2)排出をゼロにすることを目標に、化石燃料を使う火力発電所を新設しない。稼働中のものも廃止し、再生可能エネルギーの建設を推進しています。神鋼の2基増設は、この世界の流れに明らかに逆行します。今年の3月国際エネルギー機関と国際再生可能エネルギー機関が共同研究した、パリ協定実現のための見通しに関する報告書では、石炭火力発電は、2035年には世界からほぼ消えています。

### 減る石炭火力 増える再生可能エネ

2016年世界の石炭火力発電所は一気に減少に転じ、建設前の48%、着工開始の62%、建設中の19%が中止。中国とインドだけでも100以上の68GW(6800万kw)が中止している。(グリーンピースの報告)一方再生可能エネルギーは2015年だけで1億5200kW増、累計で19億8500kWに達している。(国際再生エネルギー機関調査)

